

# 砂名の ベトナムに乾杯

## 第13回 ベトナム初の日本酒専門「角打ちのある酒屋(小売店)」オープン

ベトナムでは外国資本の企業進出や起業に何かと制限が多い。それは日本も同様で、私たちはゼロ円で起業できるが、ベトナム人の友人は「資本金500万円」が最低条件だと話していた。さらにアルコールライセンスの取得はベトナムでも日本でも難しい。

今回ベトナム初となる「日本酒専門の角打ちのある酒屋」は、2015年にベトナム初の日本酒専門のバーを設立した当初からの事業計画の一環だった。だが実際に計画書を書き始めたのは17年9月からで、2年半の間に5件、投資を募ったがいずれも不成立。20年1月末に東京の投資家が降りたのを機に方針変更した。正月から助成事業用に手直ししていた事業計画書を早急にまとめ、2月末に業務スーパーの助成事業に応募した。コロナ禍で景気が低迷する中、6月初旬、外資100%で会社設立の申請をした。7月末、事業計画が採択され「ベンチャー支援金」が降りた。

資金調達はできたものの、日本人コンサルタントは一律に、B to Cのアルコールライセンス取得は難しいと言う。しかしワインショップはレタントン界隈だけでも3店舗ある。さっそくWearhouseハノイのフランス人にMessengerで相談すると「驚くほど簡単だよ」と言う。拍子抜けした。次にHai Ba Trung「Bacchus」のベトナム人経営者を訪ねた。すると「とりあえず弁護士を雇いなさい」。

Vista Managementの笠松・Loc両コン



オープン前日の角打ち(テイスティングバー)。同じ階に、酒屋も併設している。

サルタント、Tin弁護士とチームを組み、再度訪れた。社長は丁寧に、ライセンス取得の方法を教えてくださいました。

次にハードルが高いのが物件探し。ところがRESS不動産の松本社長から「いつもお世話になっているお礼方々ビジネスランチでも」とご招待くださったその翌日に、物件が見つかった。立地的にも価格的にもサイズの的にも希望通りだった。

内装は、昨年破談になったにも関わらず、別れ際の前向きでスマートな返事に感動した「24H MAINTENANCE JSC」のLuan氏にお願いした。角打ち【日本酒で乾杯!】の時は別会社に依頼したが、一時帰国していて工事の進捗を見ていない。知らぬが仏とはこのことで、今回は「胃の手術なのに間違っって腎臓切っちゃいました」的な工事に愕然とした。が「私を信頼して。すべては私の責任です。あなたは自分のビジネスに集中してください」と、すぐに修正を指示したLuan氏の言葉を信じた。結果、満足のゆく仕上がりがだった。

求人は9月から店舗マネージャーとして一緒に準備を進めてきたTuanに任せました。最初のうちは応募が少なく、レスなし、ドタキャンが目立ったが。事業の指針と、弊店負担でWSETの日本酒講座の受講を明記したところ、応募が増えた。履歴書を見る限り、5ツ星ホテルをおすすめしたいほど優秀な人材ばかり。その中で一際凛とした明朗快活な女性DuyをBARマネージャーとして採用した。

要求を満たした物件も人材も、このコロナ禍だからこそ手に入れることができたのではないと思う。

さてこの号が出るころには店はオープンしている。40/28 Pham Viet Chanh, Binh Thanh区。店名は【蔵 KURA】Kaku-Uchi & SAKE Shop。レタントンヘムの、角打ち【日本酒で乾杯!】も営業が続いている。どちらもご鼠厘のほど、どうぞよろしく願い申し上げます。



月森砂名(つきもりさな)

奈良県出身。同志社大学文学部卒業。2015年よりホーチミン市にて、日本酒の普及を目的に、ベトナムで初の日本酒専門店、角打ち【日本酒で乾杯!】を立ち上げる。東京で舞台写真の撮影や舞台制作に従事する一方で、2001年より「月森砂名」名で、小説やフォトアートの作家活動を行う。2009年設立のNPO法人 Layer Boxにて、日本の伝統文化・伝統産業について、大学、高校、専門学校などと、プロモーションビデオ、3D、CGなどでコンテンツ制作を行い、世界に発信する事業に取り組む。